



東京歯科大学広報



教職員に向けて年頭の挨拶をする井出吉信学長：平成24年1月5日（木）、千葉校舎講堂

壬辰（みずのえたつ）

平成24年1月

平成24年、東京歯科大学の水道橋回帰の年がはじまった。

学校法人を代表して金子 譲理事長より年頭の挨拶が寄せられると共に、平成24年1月5日(木)午前9時、千葉校舎講堂を埋めた教職員を前に、壇上の井出吉信学長は、校旗を背にして大学の将来展望と水道橋移転の意義、そして進捗状況について最新のスライドを示しながら語りかけた。

第一陣として、3月には教養課程の移転が完了し、いよいよ4月からさいかち坂校舎に123期生の新入生を迎えることになる。

2011年12月
2012年 1月
252号

本号の主な内容

・金子 譲理事長年頭の挨拶	2
・井出吉信学長年頭の挨拶.....	3
・水道橋病院新総合受付完成式.....	21
・訃報 学校法人東京歯科大学前監事 岡村泰孝氏ご逝去	23
・2011年の回想&2012年の抱負	23

■金子 譲理事長年頭の挨拶**－ 新生東京歯科大学の年を迎えて****【学長時代のお礼】**

明けましておめでとうございます。昨春は歯科衛生士専門学校の第60期生卒業式が何事もなく終了し、皆さんで記念写真を撮り終えてしばらくしてからのあの大地震でした。もし30分早く揺れていれば、晴れの卒業式は撮影用の一時的な階段の上に整列していた多くの学生さんにとって一転して悲劇の場になっていたところでした。また、翌日は学部一般入試(Ⅱ期)で、試験日の追加や受験生への対応など教職員にとっても大変な事態でした。さらに市川総合病院では県内の計画停電施設に入れられ、停電対応と停電解除に安藤暢敏市川総合病院長はじめ皆さんのご苦労は並々ならぬものがありました。そして初夏に入ったところで、私にとっても激変の環境を迎えることとなりました。

昨年5月末には熱田俊之助前法人理事長の任期満了と続投のご辞退から、私とその後任として大役のご指名を理事会から受けることとなりました。6月には兼務の中で井上吉信新学長の誕生をみて、7月に学務の現場を去りました。以降、理事長専任となり水道橋で毎日勤務しております。

爾来半年が経ちましたところで、立場を変えて皆様への新年のご挨拶をいたします。

まず改めて、7年間の学長職の遂行に当たって教職員皆様の協働にお礼を申し上げます。また、学長としての大学運営方針にご理解くださり、さまざまな改革をお認めいただき、ご指導ご支援くださった故井上 裕元理事長、熱田俊之助前理事長ならびに理事会、評議員会の役員皆様に感謝いたします。

【理事長に就任して】

学長時代は学内外の委員会等会議で日常が廻っていた感がありますが、現職の現在はそのような状況は一変しており調査・思索のために時間をとることができております。

したがって、学校法人の本質、大学運営形態など法人の管理運営のあり方など、今後理事長としての役割を適切に執行していくための勉強に時間を当てております。

私立学校は、ある人がある時ある目的を抱いてご自身の財産の寄付によって学校を設立いたしますので、独自の教育と自主的な経営を本領としております。しかし、学校が、法人となり社会で権利を有する立場を獲得することは同時に義務を負うことでもあり、これらの権利義務は設置目的の範囲における事柄ということになります。このような原則において学校は、教育基本法と私立学校法という法律によって規定され、さらに本学であればそれに基づいて作成された学校法人東京歯科大学の寄附行為で運営されているということでもあります。ここで重要なキーワードは、建学の精神、公共性、独立性、コンプライアンスであり、これを行っていく上で東京歯科大学の理念・存在意義をどのように自身で作りにあげているかということでもあります。そして、歯学部、大学院歯学研究科、歯科衛生士専門学校ならびに3病院の母体であるわが学校法人の現状は、その存在意義に適合しているのか、これを常に自身で問うことが学校法人として重要であると考えております。

【学校法人として】

東京歯科大学の教職員は総勢1,255名(平成24年1月1日)であり、まず法人としては雇用者の生活安定のために人件費の確保が第1義的な経営目標になろうかと考えています。教職員の意欲的な勤労こそが大学を守り発展させる原動力で「人は石垣、人は城」の感覚なくして本学の発展はありえないと考えているからであります。



幸い大学移転のための建築は、工程に遅滞なく進行しており、4月には新入生を晴れて「さいかち坂校舎」に迎えることができますので、教養科目の教員と関係事務員の皆さんはもう直ぐに移転第1陣となります。

今後3年強（平成26年度）で移転が完了いたしますが、平成25年度には基礎講座の皆さんが移転し、その翌年に現在の2年生の臨床実習が水道橋病院で主体的におこなわれますが、こうした作業が継続しているなかで、第2期工事や移転完了後の稲毛校地の利用法を計画していかなければなりません。

法人はこのようなハード面のみならず人についても大学の中長期計画について財政を基盤にしながらしっかりと策定する必要があります。教職員の皆さんがよりどころにする大学の目標を理事会が設定し、その達成のために学長が現場指揮をとるという形態が本学を強靱にすると考えています。これは、私の考えというよりは私立学校法の平成16年に改正された重要なポイントの一つの具体化でもあります。

現在の不安定な世界状況は、時をおけば安定するというわけではありませんので、大学運営における意思決定機関と執行機関である法人理事会、そしてそのチェック機関である評議員会が適切にして迅速な機能を持つことが重要であると考えています。

【おわりに】

現今の国内外情勢、わが国の医療問題、歯学部の実状などは、いずれも直接本学法人に影響を与えます。受験生・在校生にとっての魅力ある東京歯科大学・歯科衛生士専門学校、患者さんにとっての信頼できる病院、医療・歯科医療の発展に寄与できる研究成果が、経営基盤確立の要因となりますので、本法人としては「高機能低経費のハイブリッド歯科大学」で世界で戦える私立歯科大学を目標とした戦略が必要と考えています。これを現場で成し遂げてくださるのは井出吉信学長はじめ皆様でありますので、事業内容を皆様に十分ご理解いただくことが肝要と考えています。本年は新生東京歯科大学のスタートと位置づけ、今後の法人事業を皆様に分かりやすくお伝えしていきたいと考えています。

東日本大震災によった被災地の早い復興と辰年にちなんだ本学の勢いを願いながら、新年のご挨拶いたします。

■井出吉信学長年頭の挨拶（平成24年1月5日（木）、千葉校舎講堂にて）

皆様、明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願ひしたいと思っております。

ご存知のとおり、今年はいよいよ水道橋移転の始まる年ですので、尚一層宜しくお願ひしたいと思います。

昨年の暮れに、水道橋病院の受付が改装になっていますので、是非ご覧になっていただければと思います。

【水道橋新校舎について】

千葉校舎の方々はまだ移転に対して実感がわかないというところがあると思います。これは何度かお見せしましたが、さいかち坂校舎です。今年の4月に開校になります。それから次の年の6月に、あるいは1ヶ月遅れるかもしれませんが7月には新館が竣工する予定です。

現在、水道橋TDCビルの改修を盛んに行っているところです。ちょうど走っている中央線の長さを見ていただくと分かるのですが、本館校舎からさいかち坂校舎までの距離はそれほどありません。しかし、さいかち坂校舎に通う場合はお茶の水駅からの方が良いかと思わないでもありません。



【水道橋本館校舎（仮称）の改修について】

本館の方の改修も大分順調に進んでいまして、ご存知のように13階にはCBTルームとして全ての机にコンピュータが入りました。昨年は推薦入試がここで行われました。幸いなことに昨年度より1割くらい受験者が多かったです。一般入試も今受け付けていますが、今のところは昨年に比べて1割くらい多い応募者があり、安心してるところです。

6階が事務部長室になっています。この反対側が同じ造りで病院長室になっていまして、全部透明で中がよく見える、中の様子がわかる形になっています。

ロッカー室の前には、歯科大学ですので沢山の洗面所があり、洗口や歯磨きができるように綺麗に設置されています。それから、既にできていた間仕切りを取って、大きなセミナールームを2つ作りました。ここで昨年の推薦入試を行いました。5年生の一部が臨床実習を行っていますので、今6階は5年生の控え室になっています。

昨年暮れの28日、仕事納めの日に水道橋病院新総合受付の開所式を行いました。多くの水道橋の先生方や事務の方に見ていただいたの開所式でした。非常に品良く造ってありますが、少し狭いかなと心配しています。効率よく動かなければなりません。本日からこの総合受付を使って開始しました。こちらがテナント側から見た所で、この下には床暖房が入っているのですが、更なる防寒対策のため、この後少し工事を進める予定です。また水道橋病院2階に総合診療室開設に向けて、工事を行っております。2月9日に完成式を行う予定です。

【さいかち坂校舎について】

本年2月に竣工、4月に開校です。さいかち（皂角）というのは非常に難しい字です。この坂がさいかち坂（皂角坂）で、上がりきった所に校舎があります。これが昨年の11月に撮った写真ですが、ほとんど出来上がってまして、2月には竣工となります。大学の同窓会支部長が高野伸夫千葉病院長ですが、高野千葉病院長の元で、3月17日に同窓会支部会をここで行う予定です。大学と共催で行いたいと思いますので、是非今日ご出席の方々にも来ていただきたいと思います。同窓会支部会后、TDCビルの方で懇親会を行う予定にしています。

【新館校舎（仮称）について】

新館は、本格的に地下から工事を行っているところです。これは来年の7月に竣工する予定で、来年の夏にかけて引っ越しを行っていく予定になっています。

【水道橋移転一次計画Ⅱ期について】

一次計画のうちのⅠ期が今進んでおりますが、一次計画の中のⅡ期は、本館裏のビルの取得が昨年の暮れにほとんど完了しましたので、来年くらいから設計に入れると思います。これが全部完成したところで、一次計画終了という形になります。今後の計画はまだよく分かりませんが、隣接地取得の交渉は始めています。今後のことは我々の世代ではなくて、ここにいらっしゃる50歳以下の先生、あるいは事務の方々に進めていただければと思っていますが、隣接地取得の計画としては進めさせていただいているところです。これが大体の予定です。

【水道橋移転に向けて望むこと】

このように建物としては順調に進んでいますが、「仏造って魂入れず」ではありませんが、実際、大学は教育・研究・診療を行うところですので、最後は人になるわけです。今、診療は高野千葉病院長、それから教育の方は河田英司教務部長、研究は井上孝大学院研究科長に、それぞれの分野での人員計画を考えていただいています。移転の統括部門としては石井拓男副学長に担当していただいております。まず適材適所のところを見て、その後もう一度、講座あるいは各教授と相談しながら、今年の夏位までにある程度計画を立てて行ければ良いと思っています。事務部門に関しましては加藤靖明事務部長を中心に新しい事務体制、それからまさしくそこにどうやって人を組み込むかということも今考えているところです。

最後は当然人ですので、そのところは十分今考えています。様々な不安な点や疑問な点があると思いますが、東京歯科大学は移転する度に発展していくということが今までの歴史で分かっていますので、是非宜しくお願ひしたいと思っています。

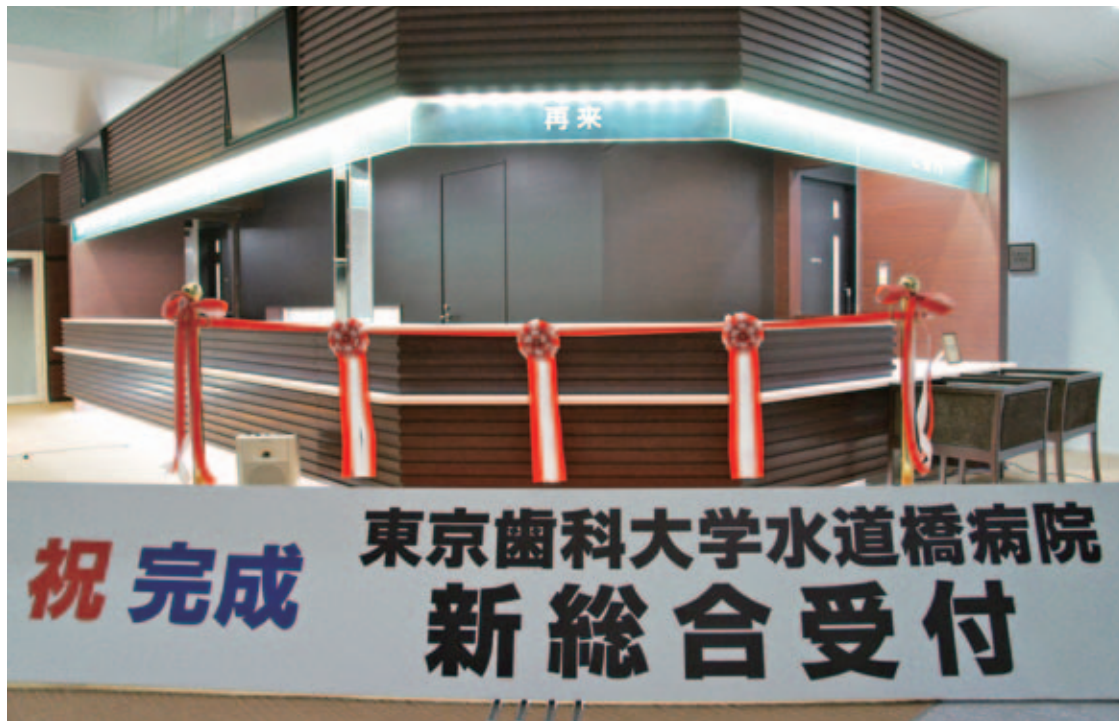
もう一つは、次の10年、20年先ということでもないので、5年ぐらい先を見据えた後継者、次の人を是非育てていただくということをいつも念頭に置いて仕事をしていただきたいと思います。事務部長は次の事務部長あるいは課長、係長、各職員を。教授は次の講座あるいは教室を主宰する人を。私は当然次の学長のことを考えながら育てていきます。やはりきちんとした後継者を育てることが大学にとっても、どこの企業にとっても大切なことなのです。度々金子 譲前学長が年頭挨拶で駅伝の話をされていましたが、駅伝も毎年きちんと出てくる大学はそれなりの後継者を必ず作っているわけです。そういうことが非常に必要になると思っています。次の後継者を上手く育てていただくということも今年の一つの大きな目標にさせていただけますよう切にお願いして、年頭の挨拶とさせていただきます。宜しくお願ひ致します。

水道橋キャンパス



本館校舎（仮称）

■1階



水道橋病院新総合受付



オープンした受付の風景



受付手前の診療申込書記入台

■2階



総合診療室前ロビー



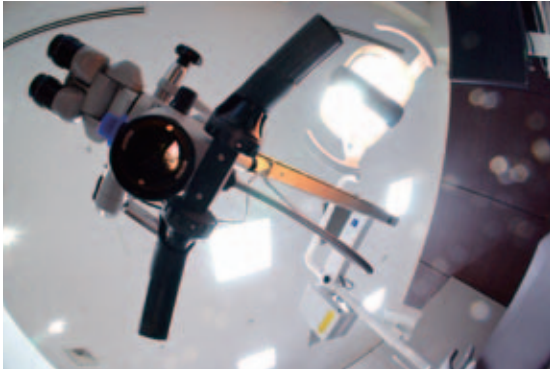
総合診療室受付



総合診療室



診療チェア



Zeiss社製 手術用顕微鏡



学生ラボ

■6階



事務部長室



洗口コーナー

■13階



CBTルーム



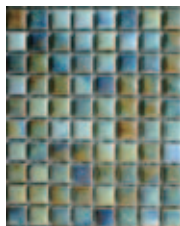
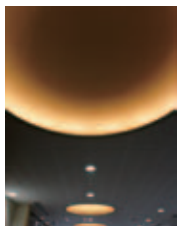
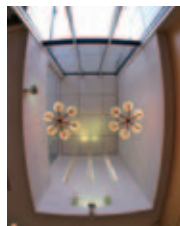
セミナールーム

さいかち坂校舎



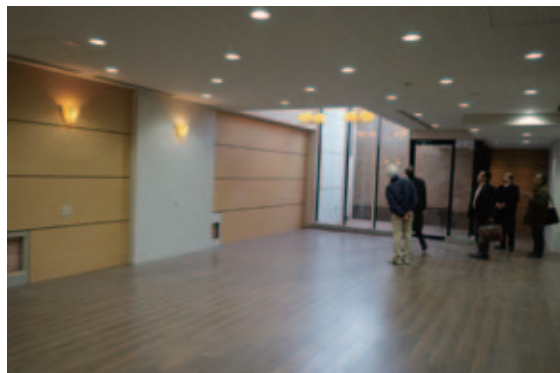
校舎正面

校舎からの風景



■地下1階

■3階



ラウンジ

ラウンジ

■4階



第1講義室

■5階



第2実習講義室

■7階



図書室

新館校舎(仮称)



建設現場 (右奥が本館)



現状

学内ニュース

■第338回大学院セミナー開催

平成23年12月1日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第338回大学院セミナーが開催された。今回は、整形外科医で、NPO法人オーソティックソサエティー理事長の内田俊彦氏を講師にお迎えして「足の障害と靴 - 歯科医も靴に興味を持とう -」と題した講演を伺った。

日常生活を行う上で、靴は必要欠くべからざる道具であるが、選択を誤ると足の障害をきたすことがある。日本人の足型は甲高、幅広といわれており、日本で販売されている靴のほとんどが幅広のものでしめられている。しかし、実際に足の計測をすると、甲高、幅広の足は少なく、足に適合しない靴を使用しているものが多いため、どのような靴が適当であるのかは十分に検討して選択する必要がある。

また、現在、多くの靴メーカーはその機能性を考え、衝撃吸収性や反弾発性など様々な素材・構造の改良に努めているが、機能性に優れた靴であっても足に合わなければ疼痛の原因となるばかりでなく、姿勢や歩行に影響を与え、ひいては脊柱側弯や咬合異常をもきたす可能性がある。したがって、もし外反母趾などの種々の足のトラブルが発生した場合には下肢長、足囲、足幅などの計測を行って、靴合わせと足底挿板で治療する必要があるとの講演であった。

あらためて靴の重要性を認識させてもらう有意義な講演であった。



講演される内田氏：平成23年12月1日(木)、千葉校舎第2教室

■大学院入学試験（Ⅰ期）実施

平成23年12月3日(土)午前9時30分より、千

葉校舎において、平成24年度大学院入学試験（Ⅰ期）が実施され、外国語（英語）試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、口腔がん専門医養成コースの試験も行われた。本年度は、志願者29名（一般28名、口腔がん専門医養成コース1名）が受験し、12月9日（金）正午に合格者の発表が行われた。なお、大学院入学試験（Ⅱ期）は平成24年2月18日（土）に実施される予定である。

■【テーマA】第2回大学教育推進プログラム公開フォーラム開催

平成23年12月3日（土）午後1時30分より、千葉校舎第5教室において、第2回大学教育推進プログラム公開フォーラムが開催された。本取組は、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムで選定された本学の取組「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成 ～高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上～」において、「コミュニケーション教育」と「医療倫理教育」をさらに発展させ、「総合診療計画立案能力養成プログラム委員会」の発足と「ペイシェント・コミュニティ（P-Com）」の設立を軸としており、これらにより、国民が求める高い人間力と行動特性を持った医療人を養成しようとするものである。本フォーラムではこれまでに取組んできた事業の報告と今後の活動についての発表が行われた。

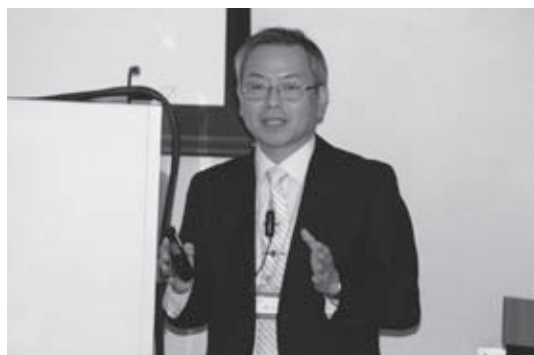
まずはじめに井出吉信学長の挨拶が行われ、河田英司教務部長（歯科医学教育開発センター主任・本取組責任者）より本取組の趣旨説明が行われた。

次に一般講演として社会歯科学研究室の平田創一郎准教授より「コミュニケーション学を中心とした総合診療計画立案プログラムの実施状況」、臨床検査病理学講座の村上 聡助教と歯科医学教育開発センターの山本 仁講師より「ペイシェント・コミュニティ（P-Com）の現状と学生教育への参加について」、総合診療科の高橋俊之准教授より「360度フィードバックの導入について」と題し、コミュニケーション学、

臨床実習でのポートフォリオ、P-Comの現状、360度フィードバック研修WSの実施状況等について講演が行われた。

当日は、P-Comメンバーをはじめとして学内外から64名の参加者が集まり、最後の総合討論としてのフォーラムディスカッションでは、第1回フォーラムにも参加された群馬大学医学教育センターの坂本浩之助副センター長や群馬大学公開講座OB会の長岡富美子様、そして、本学のOSCEにおいてSP（模擬患者）として長年にわたり協力いただいている中野一字氏、日本大学歯学部尾崎哲則教授、など外部の方も含め、意見交換が熱心に交わされ、午後4時すぎに石井拓男副学長の閉会の挨拶で盛会の内に終了した。

本取組は本年度で最終年度になり、文部科学省からの助成はまもなく終了となるが、今後も継続し発展させていく。



説明する山本講師：平成23年12月3日（土）、千葉校舎第5教室

■市川総合病院 市川市との合同医療救護活動訓練報告

平成23年12月3日（土）午後2時より、市川総合病院において地震などの大規模災害に備え、市川市との合同医療救護活動訓練が開催された。

市川総合病院は災害拠点病院に指定されており、災害時には多数の負傷者が押し寄せることが予測されことから、市川市は市川総合病院敷地内に医療救護所を設置することになっており、医師会から派遣された医師が負傷者の応急手当てと病院内への搬送の要否判断などを実施することになっている。

訓練は「東京湾北部 地震マグニチュード7.0」の地震が発生、市内は震度6強の揺れに襲われて建物の倒壊及び一部地域に火災発生などで多くの負

傷者が出たとの想定で始まった。

市川総合病院の役割は、市川市及び市川市医師会と相互に連携を図り、速やかに医療救護活動を実施し、後方病院の機能を果たすというものである。市川総合病院が患者で溢れ、重傷者への対応など本来の役割が損なわれてしまう可能性があるため、市川市により市川総合病院正面に仮設救護所が設営され、市川市医師会の医師によるトリアージが実施されることとなっている。軽微な負傷患者は仮設救護所で治療して帰宅させ、院内での治療が必要となる重症患者を判別して後方病院である市川総合病院へ搬送する。一方、市川総合病院側では医療救護所から搬送されてくる重症患者を受け入れ、院内で二次トリアージを実施して重症患者の処置を行うという、それぞれの役割があらかじめ決められている。訓練は、そうした役割分担を想定し行われた。

当日は雨天にも関わらず、市川市医師会員・市川市薬剤師会員・千葉県接骨師会員・市職員および市消防局や市川総合病院の医師・歯科医師・看護師・教職員ら近隣住民も含め約130名が参加した。今年で3回目となる合同訓練は、滞りなく進

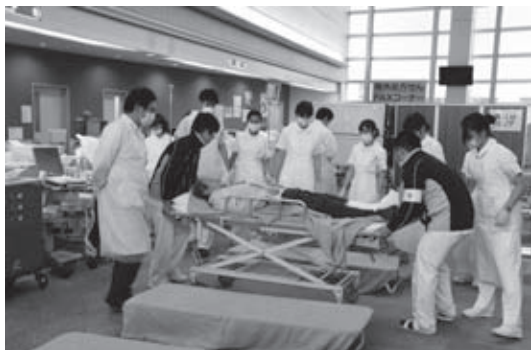


一次トリアージ風景：平成23年12月3日（土）、市川総合病院整形外科外来待合ホール



二次トリアージ風景：平成23年12月3日（土）、市川総合病院外来1階待合ホール入口

行し、人の動きや各種オーダーなどの流れを確認することができた。また、今後の課題となる問題点も数多く発見することができた。また、実際に災害が発生した際に、受け入れ能力を超えた多数の被災者が来院した場合には、対応が不可能になるという現実も想像されることから、普段から地域住民に対しての啓蒙活動も重要であることが再認識された。参加者は災害時の基本的な考え方や、流れを理解する上でも災害に対する意識がより高まった訓練となった。



院内における傷病者処置風景：平成23年12月3日（土）、市川総合病院外来1階待合ホール

■第339回大学院セミナー開催

平成23年12月12日（月）午後5時より、千葉校舎第2・3セミナー室において、第339回大学院セミナーが開催された。今回は、広島大学大学院歯薬総合研究科創生医科学専攻先進医療開発科学講座の高田 隆教授を講師にお迎えし、「歯性感染症と非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の関連について」と題した講演を伺った。NASH (Non-alcoholic steatohepatitis) はアルコールの過剰摂取とは関係なく肝臓に脂肪が沈着する肝炎で、歯性感染症との関係を示した研究は皆無である。



講演される高田教授：平成23年12月12日（月）、千葉校舎第2・3セミナー室

高田教授は、マウスを用い臼歯根管から *P.gingivalis* を感染させ、根尖部歯周組織と肝臓の変化を検討し、*P.gingivalis* が肝臓のグリソン鞘に存在することを示され、*P.gingivalis* がNASHの発症に関わる可能性を示された。現在口腔内細菌が菌血症をおこし、全身に影響を及ぼしていることが知られているが、肝臓との関係を示した実験は初めてである。講演後多くの大学院生より、質問があり活気あるセミナーとなった。

■創立120周年記念誌編集慰労会開催

創立120周年記念事業による記念DVD及び記念誌の完成を祝し、編集に携わった委員への慰労会が平成23年12月15日（木）新世界菜館（神田神保町）で開催された。会は川口 充記念誌編集部副委員長（記念誌担当）の司会で進められ、柳澤孝彰記念誌編集部会委員長の開会の辞の後、金子 譲理事長、井出吉信学長、顧問の水川秀海先生よりご挨拶があり、上田祥士先生の乾杯で始められた。

和やかな雰囲気の中、歓談中も本学の歴史を振り返る話に終始し、記念誌には描ききれなかった世界を更に伝えていく必要性を感じる会となった。



慰労会記念写真：平成23年12月15日（木）、新世界菜館（神田神保町）

■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが平成23年12月17日（土）午後2時より、水道橋校舎13階のルームAにおいて開催された。

ガイダンスは、水道橋病院長の一戸達也教授による「お昼寝してる間に歯科治療 - 歯科における麻酔の役割 -」と題した模擬授業から始まり、液

晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況、平成24年度入学試験の概要、入試科目のポイント等について説明があった。

今回は一般入試および来年度の入試も見据え多くの方が参加し、本学の情報を入手しようと熱心に説明を聞いていた。特に一戸教授の模擬授業は、受験生にもわかりやすく、全身麻酔下での歯科処置について説明があり、終了後のアンケートで受験生からは「歯科医師という仕事が格好いいと実感できました」や「歯科医師でも全身麻酔を出来ることを知り驚いた」等の感想が出てくるところから、かなり熱心に聞いていただいたと実感できた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。69名もの参加があり、大盛況なガイダンスとなった。



模擬授業を行う一戸教授：平成23年12月17日（土）、水道橋校舎13階ルームA

■水道橋病院カルテ記載に関するワークショップ開催

本学では、カルテ記載の標準化を図り、歯科医学的及び保険診療的観点に基づき、より良質なカルテ記載ができるよう、本学3病院合同の診療録管理委員会を設置するなど、カルテ記載技能の向上に努めている。その一環として、平成23年12月17日（土）午後1時より、水道橋校舎13階B教室およびセミナー室において、「水道橋病院カルテ記載に関するワークショップ」が開催された。このワークショップは、水道橋病院の指導的人材の育成を目的とし、本学初の試みとして開催されたものである。

今回は、水道橋病院の本務教員24名を対象者

として行われた。タスクフォースは、本学病院合同診療録管理委員会副委員長の杉戸博記准教授をはじめ、水道橋病院診療録管理委員会の委員5名が務めた。また、オブザーバーとして、水道橋病院診療録指導委員会統括委員長の黒須 誠臨床教授をはじめ、5名の委員の先生方をお迎えしてご指導いただいた。

一戸達也水道橋病院長による挨拶の後、プレテストおよびワークショップの概要説明が行われた。次に、杉戸准教授より「法的な観点からカルテ記載について」、一戸病院長より「医師・歯科医師に対する再教育制度について」と題した講義がそれぞれ行われた。引き続き、6名ずつの4グループに分かれてのグループワークとして、実際のカルテをブラッシュアップする課題（2ケース）、症状詳記等の資料からカルテを記載する課題（2ケース）に取り組んだ。なお、各グループにタスクフォース、オブザーバー各1名を配置した。

グループワークの成果を各グループより発表した後、森岡俊介水道橋病院診療録指導委員会幹事委員より、「水道橋病院における一口腔単位の診療計画への提案」と題した講義が行われた。最後



課題に取り組む受講者：平成23年12月17日（土）、水道橋校舎13階セミナー室



グループ発表および討議：平成23年12月17日（土）、水道橋校舎13階B教室

にポストテストを行い、ワークショップ全体を総括した。

受講者からは、「カルテについてグループで協議し、相互に討議を重ねることでカルテについて深く考える良い機会であった」などの感想が多く寄せられた。今後もレジデント、臨床専門専修科生等に対象を広げ、このようなワークショップを開催していく予定である。

■第108回歯科医学教育セミナー開催

平成23年12月19日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第108回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「口腔がん専門医養成コースの成果について」と題し、コーディネーターの片倉 朗教授、野村武史講師、亀田総合病院歯科口腔外科の河地 誉先生より報告が行われた。

まず初めに、片倉教授より、口腔がん専門医養成コースについて、文科省のがんプロフェッショナル養成プランに選定され、9つの大学が連携した取り組み『南関東圏における先端のがん専門家の育成』の一部として設置された経緯やコースの体系、具体的な取り組みなど概要が説明された。

次に、口腔がん専門医養成コース内に設置されているインテンシブコースについて、野村講師より、紹介された。これは、他職種・他大学・他病院に向けて広く開かれた教育・研修の場であり、参加大学内で唯一の歯学研究科としての特色を大いに活かしたメニューが組み込まれているとのことであった。

最後に、実際に口腔がん専門医養成コースを修了した河地先生により自身の研修履歴や、研究内容の紹介、出向先の亀田総合病院での活動報告が



説明する河地先生：平成23年12月19日(月)、千葉校舎第2教室

行なわれた。そして、自身が参加したことで感じた点について意見が述べられた。

新しい歯科の領域を、さらに発展させていくための人材を育て上げていく上で、大きく期待される場であり、今後の動向が注目されるものであった。

■第340回大学院セミナー開催

平成23年12月21日(水)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第340回大学院セミナーが開催された。今回は三菱一号館美術館の高橋明也館長を講師にお迎えして、「日本の美術館事情と展覧会－三菱一号館美術館を巡って」と題する講演を伺った。

本企画は、歯科医療に無関係であるが、社会的に活躍されている方々のお話を拝聴し、大学院生活の参考にするというものの一つである。

高橋館長は、日本にもヨーロッパのように都市の中心部、すなわち東京丸の内に美術館(旧三菱一号館を再現した建物の中に近代設備を備えている)を建設した立役者である。また、高橋館長はフランスオルセー美術館の立ち上げにも係った経験がある。

当美術館が所有している作品をもとに開催されて大好評の「トゥールーズ＝ロートレック展」の内容に話が及び、一枚一枚の絵画の背景を述べ、それに歴史的な事実等をもとに奥深い考察を加えての講演であり、我々の書く原著論文と似たものがあり参考になった。またその語り口もゆったりとして、日々忙しい我々の現場から一時逃避することもできた。



講演された高橋館長(左)へ感謝状を渡す櫻井 薫教授(右)：平成23年12月21日(水)、千葉校舎第2教室

■平成23年度第6回水道橋病院教職員研修会 開催

平成23年12月26日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成23年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「AEDの使用方法について」と題して、水道橋病院リスクマネージャーの半田俊之講師(歯科麻酔科)が講演を行った。

半田講師は、AEDの使用方法および水道橋病院内のAEDの設置場所について説明し、再確認を求めた。更に、2010年秋に改編となった一次救命処置(basic life support : BLS)のガイドライン(G2010)について、以前のガイドライン(G2005)との変更点を中心に解説した。本ガイドラインの大きな変更点として、迅速な胸骨圧迫を開始することができるように、心停止と判断された場合には胸骨圧迫からCPRを開始することが推奨されることとなった。よって、今まで使用されてきたG2005とは、処置の順序が異なることが説明された。

一次救命処置とは、第一発見者が行う処置のことである。病院内においても、一次救命処置は医



講演する半田講師：平成23年12月26日(月)、水道橋校舎13階B教室



AEDの実演：平成23年12月26日(月)、水道橋校舎13階B教室

療従事者のみが行うものではない。よって、医療従事者だけでなく、全ての病院職員が正しい知識を持ち迅速に実行できなくてはならない。

水道橋病院では、これまでも同様の内容で研修会を定期的に行ってきた。今回も、的確に初期の救急処置を行える体制を整えることの重要性を、あらためて認識させられた。

■「平成23年仕事納めの会」実施

千葉校舎「平成23年仕事納めの会」は、平成23年12月28日(水)午後1時より、厚生棟1階食堂において開催された。会場には教職員、大学院生、臨床研修歯科医等が多数集まり、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、井出吉信学長より一年を締め括る挨拶が述べられた。引き続き、柳澤孝彰副学長のご発声により一同乾杯、今年一年の労を互いにねぎらい、会は賑やかに進化した。

懇談の中、石井拓男副学長の中締めにより、会は和やかな雰囲気の中に閉会となった。

市川総合病院では、午後4時30分より、講堂において開催された。井出吉信学長より、市川総合病院教職員に対して挨拶が行われた。続いて、間部克善事務部長より医学教育等関係業務功労者表彰、千葉県私学教育功労者表彰が披露され、最後に安藤暢敏市川総合病院長よりボランティア団体に感謝状の贈呈が行われた。

水道橋校舎では、午後6時15分より水道橋校舎10階において、金子 譲理事長、熱田俊之助法人常務理事、井出吉信学長、石井拓男副学長、高橋一祐名誉教授、大山萬夫同窓会長をお迎えし、水道橋病院・法人事務局・同窓会事務局の教職員が一堂に会して開催された。井出学長からの挨拶に続いて、一戸達也水道橋病院長・法人



井出学長の挨拶に聴き入る教職員：平成23年12月28日(水)、千葉校舎厚生棟

主事の挨拶および発声により乾杯した。参加した教職員は大いに語り合い、終始和やかな雰囲気での懇親を深め合った。また、公務により、会の途中に到着された金子理事長が挨拶し、1年間の労をねぎらうとともに、新年を迎えるにあたり、教職員を激励した。最後に、高野正行水道橋病院副院長の中締めによりお開きとなった。



挨拶する井出学長：平成23年12月28日（水）、市川総合病院講堂



挨拶する一戸水道橋病院長：平成23年12月28日（水）、水道橋校舎10階

■「平成24年仕事始めの会」実施

千葉校舎「平成24年仕事始めの会」は、平成24年1月5日（木）午前9時より、講堂において教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、井出吉信学長による年頭の挨拶が行われた。大型スクリーンを使用して映写をしながら、水道橋校舎の建築状況と今後の方針等について説明が行われ、会場内には、いよいよ始まる移転に向けて全教職員が一体となって取り組んでいこうという意気込みが感じられた。

市川総合病院では、午後4時30分より、講堂において開催された。安藤暢敏市川総合病院長より、市川総合病院教職員に対して年頭の挨拶が行

われ、市川総合病院の一年の幕開けになった。

水道橋校舎では、午後6時より水道橋校舎13階B教室にて、水道橋病院・法人事務局の教職員の出席のもと、井出吉信学長、一戸達也水道橋病院長・法人主事による年頭の挨拶が行われた。



千葉校舎仕事始めの会風景：平成24年1月5日（木）、千葉校舎講堂

■市病フォーラム2011開催

平成24年1月21日（土）午後2時より、市川総合病院講堂において、市病フォーラム2011が開催された。

今回は「チーム医療の力で病院を変えよう」と題して行われた。安藤暢敏市川総合病院長の挨拶にはじまり、佐藤道夫実行委員長（外科学講座 准教授）の司会進行のもと、市川総合病院におけるチーム医療の現状について、2部構成により各職域から講演が行われた。

佐藤実行委員長による「基調講演」に始まり、第1部として緩和ケアチーム、呼吸ケアチーム、糖尿病ケアチーム、感染制御チーム、栄養サポートチーム、摂食・嚥下ケアチーム、褥瘡対策チーム、救急医療チームと様々な職域から、各チームにおける紹介や現状、今後の方向性や対応策についての講演が行われた。

続いて第2部として、臨床検査科、MEセンター、放射線科、脳神経外科、リハビリテーション科、地域連携・医療福祉室、医療情報システム管理課、医療安全管理部、医事課など、様々な職種からチーム医療への取り組みや今後の問題点、さらには医療安全・病院収益についての講演が行われた。

170名を超える参加者からは、大いに関心が寄せられ、最後の総合討議も活発に行われ、大変有意義なものとなった。

最後に、松井淳一広報委員長（外科学講座 教授）から挨拶をいただき、閉会となった。



開会の挨拶をする安藤市川総合病院長：平成24年1月21日（土）、市川総合病院講堂



基調講演する佐藤実行委員長：平成24年1月21日（土）、市川総合病院講堂

■平成23年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成23年11月7日（月）、8日（火）および平成24年1月23日（月）、24日（火）の2回にわたり、水道橋病院において「平成23年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、水道橋病院をはじめとする都内の3大学病院が東京都福祉保健局からの委託を受け、都内の医療従事者向けにエイズに関する実践的な知識・技術の習得を目的に行われているものである。水道橋病院では「基礎コース」、東京医科歯科大学歯学部附属病院では「標準コース」、東京医科大学病院では「実践コース」として、各々年に2回、定員6名と少人数で行われている。13回目にあたる今年度は、11月に6名、1月に6名の合計12名が受講した。また、水道橋病院の臨床研修歯科医も講義を受講した。

今年度の研修は、池田正一水道橋病院臨床教授をはじめ、水道橋病院のスタッフが講義・実習を

担当した。11月8日（火）は根岸昌功先生（ねぎし 内科診療所院長）、1月24日（火）は今村顕史先生（東京都立駒込病院感染症科）を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場から貴重な講義をいただいた。その他の講義内容は、スタンダード・プリコーションの理念および具体的な取り組み、感染症者の歯科治療における注意点、HIV/AIDSの口腔症状、HIV症例呈示などであった。実習は、手洗いおよび含漱の評価、防護エプロンとマスクの着脱などを行った。次いでCCR（クリーンケアルーム）において感染予防対策の実習およびHIV感染者の治療見学を行った。

研修後の受講後のアンケートからは、「スタンダード・プリコーションの重要性を再認識した」、「HIVに対する印象が今回の研修に参加することで大きく変化した。感染者から自分の身を守ることも、感染者が他の感染に感染しないように私たちが配慮することが必要であることがわかった」と好評な意見をいただいた。



講演される池田臨床教授：平成23年11月7日（月）、水道橋病院研修室



感染予防対策としての含漱の評価：平成24年1月23日（月）、水道橋病院6階洗口コーナー

■平成23年度第7回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年1月23日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成23年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「何故患者は怒るのか - 東京都歯科医師会歯科相談から見た現代事情 -」と題して、東京都歯科医師会医事相談担当理事の小枝義典先生にご講演していただいた。

小枝先生は医事相談担当理事のお立場で、患者からのクレームや、歯科医師および診療室の問題等、多岐に渡る内容の相談等に対応されている。ご講演では、クレームを未然に防ぎ、問題を起こさないために必要なこと、問題が起こりそうな場合の対処、そして問題が起こってしまった場合の対応などについて、ユーモアを交え解説していただいた。実際に寄せられた相談内容の内訳は、院内内の対応(18%)・インプラント(16%)・可撤性義歯(16%)・クラウンブリッジ(15%)・保存(13%)・矯正(12%)と、その内容にあまり偏りがないとのことだった。

次に、クレーム患者の特徴を具体的に挙げて説明された。これらは実際になるほどと思えるものが多いが、教科書などには絶対に載らない内容なので大変興味深かった。また、患者と一般的歯科医の契約にあたる「善管注意義務」について、医師が患者に対応する際の注意点を解説していただいた。そして大事なのはインフォームド・コンセントで、自己決定権をもつ患者から、必ず承諾を受けた上で治療を行うことの重要性が示された。その上で、問題が発生しそうな場合の対処、さらに問題が起きた場合の対処について説明された。このような問題に対しては、1人ではなく、情報を共有してチームで対応することが重要とのこと



講演される小枝先生：平成24年1月23日(月)、水道橋校舎13階B教室

であった。そして、それでも医事紛争が起こった場合の対処、診療録・レセプトの開示についての説明、最後に実際のクレームについてその事例を聞かせていただいた。

日々の診療において、医療事故に対する注意だけでなく、患者に対する接遇の重要性を改めて認識させられる意義深い講演だった。

■第109回歯科医学教育セミナー開催

平成24年1月30日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第109回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「診療参加型臨床実習カリキュラム立案・実施のためのワークショップ参加報告」と題し、水道橋病院長の戸達也教授と総合診療科の杉戸博記准教授より報告が行われた。

初めに、戸教授より、全国の各大学で実施されている臨床実習の現状を踏まえた上で、その改善策等が議論された「歯学教育の改善・充実に関する協力者会議」において取りまとめられた事項について説明がなされた。そこでは、臨床研修の成果を確実にするために、臨床実習から臨床研修へと迅速に移行していく方策として、学生の実施履歴を記録した連携手帳などが紹介された。

次に、上記の協力者会議に基づき実施されたワークショップに参加された杉戸准教授より報告がなされた。ワークショップ内で構成されたセッションに沿って、グループ内での討論内容や、そこでまとめられた内容、講義等が紹介された。

最終的に、国際的視点を含む第三者評価に耐え得る歯学教育を確立するために、診療参加型臨床実習の今一度の見直しを計るとともに、早期から対応できるように、初年次から臨床実習教育を実施するなどの意見が挙げられた。



説明する杉戸准教授：平成24年1月30日(月)、千葉校舎第2教室

トピックス

■音成実佳講師 第24回日本顎関節学会学術大会でポスター発表優秀賞受賞

平成23年7月23日(土)・24日(日)に広島で開催された第24回日本顎関節学会学術大会において、歯科放射線学講座の音成実佳講師、児玉紗耶香大学院生らがポスター発表をした「T2強調像における顎関節下顎頭骨髄のMR信号強度変化と疼痛との関連」と題する演題が、ポスター発表優秀賞を受賞した。

顎関節症患者ではMR画像上、下顎頭骨髄変化が見られることがあり、T1強調像およびT2強調像でその信号強度変化として明瞭に描出される。同MR画像所見は病理組織学的所見を反映していると報告されており、疼痛との関連も示唆されている。一方で日常臨床では、疼痛を有していても、視覚的にはMR信号強度変化が認められない下顎頭が少なくない。下顎頭の骨髄変化が疼痛と関連しているならば、視覚的には変化のない下顎頭骨髄においても、何らかの変化が認められるのではないかと考えられた。そこで、本研究では視覚的には変化の見られない下顎頭骨髄のT2強調像における信号強度を計測し、疼痛との関連について検討を行った。その結果T2強調像における下顎頭骨髄の信号強度は非疼痛群に比べ、疼痛群で有意に高かった。疼痛を有する顎関節では、下顎頭骨髄に視覚的には変化がなくても、何らかの病的变化が生じている可能性が示唆された。今後さらに、MRIの種々の撮像法を駆使して、顎関節症の病態の解明が期待される。



第24回日本顎関節学会学術大会において受賞した先生方、学会理事長の覚道健治先生(下段左)らと受賞した音成講師(下段左より2番目):平成23年7月23日(土)、広島市

■Sobhan Ubaidus, ポストドクトラル・フェロー (PF) Young Researcher Fellowship Award (若手研究者奨励賞)を受賞

平成23年10月1日(土)から5日(水)に開催された第6回ナトリウム/カルシウム交換体国際学会(イタリア、ナポリ、イスキア島)において、口腔科学研究センターのSobhan Ubaidus, ポストドクトラル・フェロー (PF) がYoung Researcher Fellowship Award (若手研究者奨励賞)を受賞した。Sobhan PFが発表した「Potassium dependent and independent $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger protein is mainly expressed in myoepithelial cells/ductal cells of rat salivary glands (ラット唾液腺における K^+ 依存性、非依存性 $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換体は筋上皮細胞と導管細胞に発現する)」が非常に優れた研究であるため、大会開催の事前審査で受賞が決定した。生理条件下で濃度依存的に細胞内に Na^+ を取り込み、 Ca^{2+} を排出する機構があることは知られていた。しかし唾液腺の筋上皮細胞や導管細胞に K^+ 依存性、非依存性の両輸送体の発現を報告した研究が初めてであることが受賞理由である。この発見は期間中にわたりポスター発表され、興味を持った多くの研究者が熱心に質問をしていた。受賞したSobhan PFは今後この研究を発展させ、機能についても明らかにしたいと抱負を述べた。



澁川義幸講師(右)と受賞したSobhan PF(左):平成23年10月5日(水)、イタリア・ホテル デラ レッジーナ イザベラ イスキア

■平成23年度（第42回）千葉県私学教育功労者表彰を受ける

大学事務局 高橋英子 図書課長

大学事務局 坂本智子 図書課 整理係長

市川総合病院事務部 鈴木イチ 医事課長

この表彰は、千葉県内の私立学校の教職員として長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれるものであり、今回、本学からは当該者3名を推薦した結果、表彰されることとなった。

高橋図書課長は、昭和50年より、約36年間図書館司書として、学生の学習活動および教員の教育・研究活動を支援するための環境を整備し、利用者へのより良いサービス拡大に努めてきた。近年は、電子ジャーナルやデータベース等の導入数を増やし、利便性の向上に高く貢献している。また、大学図書課長として、長年の経験を生かした部下への的確な指導や実直な人柄は、他の職員の模範として厚い信頼を得ている。

坂本図書課整理係長は、昭和50年より、約36年間図書館司書として、分類、目録編成、視聴覚資料整理や刊行物の業務を誠実かつ円滑に遂行してきた。現在も、整理係長という職務を誠実に果たし、教職員および学生等に対するサービス向上に努めている。また、謹厳実直で、労をいとわず何事にも積極的に取り組み、温厚な人柄は教職員・学生から慕われ、多くの人に信頼されている。

鈴木医事課長は、昭和49年より約37年にわたり医事業務のスペシャリストとして精励してきた。その仕事ぶりは、強い責任感と実行力を持ち合わせ、変化の激しい医事業務に対して冷静かつ

積極的に対応する姿は、他の職員の範たる存在である。また、多くの教職員から慕われ、市川総合病院医事課長として、事務部門だけでなく、医師・看護・コメディカル部門と連携を取り、業務を円滑に遂行し、病院運営に貢献している。また、大学からの臨床実習生の対応にも関与しており、大学と病院の架け橋としても活躍している。

以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。

■守 源太郎大学院生 第15回日本顎顔面インプラント学会で優秀理事長賞を受賞

平成23年12月3日(土)・4日(日)に開催された公益社団法人日本顎顔面インプラント学会(幕張メッセ国際会議場、千葉県)において口腔インプラント学講座の守 源太郎大学院生が、優秀理事長賞を受賞した。この賞は本学術大会で発表された115演題の中から、学術委員会が選考を行い、特に優れた3演題に贈られた。昨年の本学術大会では、当講座の森岡俊行大学院生が受賞しているため、東京歯科大学口腔インプラント学講座が2年連続受賞の快挙を達成した。

今回受賞した演題は、“インプラント周囲炎における歯周病関連細菌の定量”である。本研究は東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科を受診したインプラント周囲炎患者のインプラント周囲溝浸出液を採取し、浸出液に含まれる歯周病関連細菌を定量、分析したものである。インプラント周囲炎の診断基準に細菌検査が有用であることを示し、学術委員から高く評価された。インプラント治療の増加に伴い、罹患率も増加傾向にあるインプラント周囲炎は診断基準に関して明確なコン



左より、表彰を受けた高橋図書課長、鈴木医事課長、坂本図書課整理係長：平成23年12月3日(土)、千葉市幕張・アパホテル



矢島安朝教授(右)と受賞した守大学院生(左)：平成23年12月4日(日)、幕張メッセ国際会議場

センサスがなく、その治療法も確定されていないのが現状である。今後はインプラント周囲炎の診断基準の確立のため、さらなる研究が期待される。



伊藤太一講師（左）と受賞した守大学院生（右）：平成23年12月4日（日）、幕張メッセ国際会議場

■水道橋病院新総合受付完成式

大学の水道橋移転計画が本格的に進行する中、水道橋病院の新しい総合受付が完成し、平成24年1月5日（木）よりオープンとなった。これに先立ち、平成23年12月28日（水）午後6時より、水道橋病院1階において、新総合受付の完成を記念



テープカット風景：平成23年12月28日（水）、水道橋病院1階新総合受付



挨拶する井出学長：平成23年12月28日（水）、水道橋病院1階新総合受付

してテープカットが行われた。テープカットは、井出吉信学長、一戸達也水道橋病院長、大山萬夫同窓会長の3名によって行われた。なお、金子 譲理事長は本法人前監事岡村泰孝氏の葬儀に参列したため、欠席された。

井出学長は挨拶の中で、「移転の第一歩として新しい受付が完成したことで、患者さんにとっても居心地の良い病院になることと思う。教職員の皆さんもこれを契機に、患者さんのためにより良い医療を提供していただきたい」と、集まった水道橋病院教職員に激励の言葉を送った。

なお、平成24年2月には、2階部分に新しい診療室が開設する予定である。



オープン初日の受付風景：平成24年1月5日（木）、水道橋病院1階新総合受付

■平成23年度「NHK歳末たすけあい募金」実施

年末恒例の「歳末たすけあい募金」は、平成23年度も千葉校舎、市川総合病院において、それぞれ12月初旬から下旬までの間に実施された。

なお、集められた募金は2施設合計21,663円で、「NHK歳末たすけあい義援金」として寄付された。募金は共同募金会を通じて、日本国内の民間福祉施設へ車椅子や介護用品を贈るなど、施設や在宅の障害者（児）・高齢者・児童等支援を必要としている方々のために利用される。

■水道橋病院より東日本大震災義援金を寄付

水道橋病院は、病院窓口に設置した募金箱に、平成23年中に集められた募金26,705円を、「東日本大震災義援金」として日本赤十字社に寄付した。

■東京歯科大学の歴史・伝統を検証する会の発足

本学の歴史・伝統については、創立120周年記念誌「近代歯科医学教育を拓く」が完成し、その編纂過程で母校と歯科医学の歴史に対する関心が高まり、下記趣旨の通り「東京歯科大学の歴史・伝統を検証する会」が発足した。

○趣旨

創立以来120周年を経過した東京歯科大学は、幾多の変遷を経て現在の姿に成長し、今またメインキャンパスをゆかりの地水道橋に移転回帰しようとしております。しかし、国内外にわたる諸般の社会情勢により歯科大学・歯学部は未曾有の苦境にあり、わが東京歯科大学もその影響の域外ではありません。

それでも本学は長年に亘って蓄積された英知と、中長期的視座に立った進取の精神によって着実に発展をかさね、歯学の雄として揺るぎない地位を確立するとともに、将来に向かっての展望に内外からの期待が寄せられております。

このような時こそ母校の歴史と伝統を多面的に検証し、併せて歯科大学・歯学部をはじめとする大学の沿革と現状を客観的に調査研究しながら、東京歯科大学の将来像を弾力的に描いてみたいと思います。

○検証事項

- 1) 東京歯科大学と他の歯科大学・歯学部生誕の歴史
- 2) 本学の「建学の精神」と「校風」
- 3) 公立私立歯科医学校指定規則と本学との関係
- 4) 医歯一元論二元論の論点と結末(明治28年と昭和17年)における現代的意義
- 5) 教育刷新委員会と奥村鶴吉
- 6) 120年の歴史に刻まれた東京歯科大学の発展と苦節の軌跡
- 7) 東京歯科大学の歴史に登場する人物とその人間像
- 8) 日本の歯科医療草創期に登場する人物とその人間像
- 9) 慶應義塾と歯科医伝
- 10) 名物教師列伝・関東大震災・太平洋戦争他
- 11) 東歯同窓の気概・吟持
- 12) 東京歯科大学における進取の精神
- 13) 東京歯科大学の展望

以上のうち、特に1) 3) 4) 5) について重点的に検証し、学術的なかたちで公表することを目標とする

○東京歯科大学の歴史・伝統を検証する会委員

	氏名	学内職名等
顧問	金子 讓	学校法人東京歯科大学 理事長
顧問	井出 吉信	東京歯科大学 学長
委員長	吉澤 信夫	学校法人東京歯科大学 評議員 昭和39年卒
委員	水川 秀海	昭和34年卒
委員	片倉 恵男	学校法人東京歯科大学 評議員 昭和39年卒
委員	福田 謙一	水道橋病院歯科麻酔科 平成2年卒
委員	北林 伸康	大学史料室室長
委員	高橋 英子	図書課長
委員	渡辺 賢	法人庶務課

訃報 学校法人東京歯科大学前監事 岡村泰孝氏ご逝去



平成23年12月22日(木)午後5時38分に本法人前監事岡村泰孝氏(元検事総長)が急逝された。享年82歳。

葬儀は、岡村家の密葬のかたちで、去る12月28日、29日に東京都練馬区の江古田斎場にてしめやかに営ま

れた後、最高検察庁による本葬が、平成24年1月21日に青山葬儀所において厳粛に執り行われ、金子 譲理事長、井出吉信学長など大学幹部をはじめ、多くの方々が参列し、ご冥福をお祈りした。

岡村氏は、京都大学法学部をご卒業後、最高検察庁検事を経て、法務省刑事局長、東京高等検察庁検事長、検事総長の要職を歴任された後、弁護士となられ、法曹界でご活躍されておられた。また平成9年5月には、本法人の監事に就任され、平成23年5月まで14年余の長きにわたり監事として本法人の公正な運営に尽力されてこられた。

- 昭和28年 3月 京都大学法学部卒業
- 昭和28年 4月 司法修習生
- 昭和30年 4月 大阪地方検察庁検事
- 昭和54年 4月 東京地方検察庁刑事部長
- 昭和55年 6月 東京地方検察庁特別捜査部長
- 昭和56年 12月 那覇地方検察庁検事正
- 昭和58年 3月 最高検察庁検事
- 昭和58年 8月 公安調査庁次長
- 昭和59年 11月 法務大臣官房長
- 昭和60年 12月 法務省刑事局長
- 昭和63年 6月 法務事務次官
- 平成 2年 6月 次長検事
- 平成 3年 12月 東京高等検察庁検事長
- 平成 4年 5月 検事総長(平成5年12月まで)
- 平成 6年 2月 弁護士登録
- 平成 9年 5月 学校法人東京歯科大学監事(平成23年5月まで)
- 平成13年 11月 勲一等瑞宝章受章

2011年の回想&2012年の抱負

石井武展 (歯科矯正学講座 助教)

現在、117期生の副主任をしております。3月の大震災を乗り越え、117期生とともに歩んだ1年でした。自身が経験した時よりも、卒業試験と国家試験の壁は厚く高いことを実感しております。そんな117期生を時には叱り、慰め、毎日叱咤激励しながら、だんだん顔が引き締まってくる学生を最近では、頼もしく思うようになってきました。特に、仲間を大切に学生達の頑張りには、脈々と血脈イズムが根付いていることを実感し、自分の後輩ながら感動するシーンも多々ありました。是非、彼らが



幸せな4月を迎えられるよう、全力で支えていきたいと思います。

加えて、学生の成長ばかりを見ている訳にも行きません。1歳になる我が子はママとは言っても帰りの遅い私をパパとは言ってくれません。今年は、妻をサポートし、イクメンになるとともに、4月からは自身の成長の為に米国への留学を予定しております。さらに一層パワーアップして今後の大学を支えていけるように頑張りたいと思います。

市島文裕 (市川総合病院 オーラルメディシン・口腔外科学講座 大学院生)

私がオーラルメディシン・口腔外科学講座に入局してから研修医の時を含めると今年で5年が経過しました。私の中では市川総合病院に来てから5年間しかたっていないのかと思う位この5年間は長く感じています。長く感じる分充実していたのではないかと考えています。また2011年は私にとっては大学院4年目という節目の年でした。今年でいろいろな先生方に助けていただき研究に一区切りがついた為、臨床を開始させて頂きました。これは研究の期間も感じていましたが臨床も研究も日々勉強の繰り返し

返しだと感じました。

2012年は2011年の反省点をふまえて今までより研究・臨床・教育に力を注ぎ、また先輩の先生方の多くのことを吸収できるように頑張りたいと考えています。

内山 宙 (有床義歯補綴学講座 大学院生)

大学院生2年目および3年目として過ごしたこの1年間は流行語と関連深い思い出の1年となりました。「3.11」により自宅は損壊しましたが、東京歯科大学や東歯同窓会、東歯学会からの「絆」(見舞金や学会費の免除)を受け取りました。この場を借りて御礼申し上げます。大学院生としては研究で「帰宅難民」になることはありましたが、辛くはありませんでした。よく私の講座は大変といわれます。「こだまでしょうか」?

地震の影響で例年明けに行われる日本補綴歯科学会東関東支部会が2011年9月に行われることとなり、東京歯科大学学会、国際歯科研究学会日本部会の発表を、講座の皆さまに「ラブ注入」されながら4週の期間でこなす経験をしました。大学院最後の区切りの年となる2012年は「なでしこジャパン」のような不屈の精神で論文審査を恙無く終わらせたいです。

大塚 健 (法人事務局経理課 係長)

今年は二人の娘たちがそれぞれ小学校入学、幼稚園入園を迎える。いつの間にこんなに大きくなったのかと驚くとともに、子供たちの成長を感じながら、二人の新しいスタートを応援したい。東京歯科大学も今年はいよいよ「さいかち坂校舎」が開校となり、水道橋での新しいスタートの年となります。さて自分自身の抱負はというと、ワーク・ライフ・バランスの実現。今年は移転に向けてますます忙しくなるとは思いますが、私自身も(再)スタートの年として、従来のやり方にとらわれずに業務の効率化を図

り、仕事・家庭の両立を実現し、係長としてまた父親として充実した1年になれるよう頑張りたいと思います。

金安純一 (大学事務局教務課 事務員)

12月某日。広報委員より記事を書くよう依頼を受けた。「回想と抱負?」何を書こうか…。今までは広報委員で原稿を依頼する立場だった。今回、依頼を受けた側の気持ちがちよっとだけ分かった。

私は悩んだ。「あれ?確か過去に1度だけ書いた事があるな?」と思い出し過去の記事を確認した。うーん、記事は全く面白くない(笑)。大したことは書いてないな。どうしよう…。何か書かなくては(汗)。

2011年は、東日本大震災を始めとする激動の1年だったと思います。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。個人的には、年末に人事異動があり、大した引継ぎも出来ないまま新しい部署に来てしまいました。後任者および以前の部署には申し訳ない気持ちでいっぱいです。また、新しい部署には多くのご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

今年の抱負としては、新しい部署に異動してきたばかりなので、まずは、早く仕事になれることを第一優先として頑張りたいと思います。

気付けば、前回、自分が書いた内容と殆ど変わりませんが(汗)、本年も宜しくお願いいたします。

鈴木イチ (市川総合病院医事課 課長)

私の2011年の一文字は、「超」。

とにかく、毎日毎日が文章に表せないほど、「超」忙しかった!!!

医事課・私の新語・流行語は、なんだろうと考えてみたら「病院機能評価」「計画停電」「発生源入力」「自動精算機」「個別指導」「個別指導後の自主返還」この6つの言葉が浮かぶ。

年が明けてすぐに、「病院機能評価」受診のための準備にはいり、その為の研修に参加、他病院の見学、院内掲示の整理、医事課内の業務の見直し、マニュアルの作成等々。

次が、「計画停電」、3月11日の大地震の後に経験した、多くの患者を誘導しなくてはならないという業務。停電後の診療開始にそなえて、朝早くから番号札を配布したり、整理券をくばったり、停電のたびに、皆で知恵を出し合って臨んだのだが「病人を並ばせるのか?」「いつまで待たせるんだ!!」という言葉だけでなく、いろいろな罵声を浴び、力量のな



さにみんなで傷ついた。

9月1日から、自動精算機3台が稼働した。個人情報保護法が施行されてから、患者を呼ばない病院が増えたが、当院は、ホールで、初診、計算、会計それぞれで患者を連呼していたので、それらを徐々に改善していった。「発生源入力」の運用等、まだまだ診療科での改善すべき事項が山積しているが、静かな病院に様変わりすることができた。

10月末には、関東厚生局千葉事務所と千葉県による、「個別指導」が実施された。健康保険法に基づく療養担当規則にのっとり適正に治療が行われているかを調査されるものである。4月から6月までの患者を対象に、医科31名、歯科30名の治療内容が対象であった。医科に関しては、対象の先生方お一人おひとりとすべての内容をチェックし、当日に臨んだ。医事課全員が持てる力量を発揮した事柄であった。

2012年は、「個別指導後の自主返還作業」からはじまる。

諏訪あかね (歯科衛生士専門学校 学生)

2011年は、10月から臨床実習が始まり、これまでの座学や相互での実習とは一転して、今までにない緊張と責任を日々感じています。登院から2ヶ月が経った今でも新しい科に移動する度にしっかり介助や補助が行えるかどうか、ドキドキと不安でいっぱい病院実習を行っております。千葉病院における臨床実習では、歯科衛生士の方々を始め、先生方、他職種の方々の手厚い御指導を受けることができ、その指導内容を班員で共有し、助け合いながら、実習に取り組むことが出来ます。それと同時に、この臨床実習を通し、すべてが自らの将来につながる貴重な経験の連続であると実感しています。

2012年は、臨床実習も後期に入るため、技術向上はもちろんのこと、患者さんへの細かい配慮を行える自分でありたいと考えております。小児から高齢者、障がいをもつ方々まで、幅広い患者さんに出会えるチャンスのある臨床・臨地実習を行えるのは、多くの方々の支えがあつてのことであるという感謝の気持ちを忘れずに、充実した実習になるよう自ら努力していく年にしていきたいと考えます。

高木夏恵 (市川総合病院看護部 5階東病棟看護師長)

2011年は何と言っても病院機能評価(ver.6.0)の完全無条件合格、いわゆる一発合格を果たしたことに尽きます。所属する外科病棟では3日目の領域別審査を受け、58の小項目全てにa評価(100%)、22の



中項目全てに4評価(100%)を受けることができました。

1年に渡る準備の汗と涙が報われた結果に大喜びでした。病院機能評価更新受審は、文字どおり病院が受ける受験のようなもので、日々の実践を第三者にどう証明するか、医師、薬剤師、その他コメディカルの方々と試行錯誤しました。その話し合いの過程の中で各々の専門性や、求められている役割をお互いに理解し合い、他職種という見えない壁を打ち破って距離を近づけられたような気がします。病院機能評価を機会に活性化した「チーム医療」の土壌に沢山の実りある2012年にしたいと思います。

高橋英子 (図書課 課長)

辰年。とうとう還暦だ。いままで60歳と聞けばいふんとオトナに感じたものだった。気がつけばこの歳だ。早いものだ。

進学課程の図書館で働いていたことがついこの間のように。それから月日が流れ、大学移転に2度も立ち会うことになった。千葉に来た時は全面移転だったので専門と教養をどのようにひとつにするかが課題だった。今度は、ひとつのものを4つに、どんな図書館にしていくかが問われている。

60歳という区切り。いままで自分の中に積もったいろんなものに立ち止まって考える、そんな時がきたのだ。今年はじっくりと落ち着いて、未知の世界を夢見たいものだ。

田口悦郎 (大学事務局庶務課 事務員)

昨年12月に、大学教務課から大学庶務課に異動になりました。教務課では、授業関係や試験関係業務をやらせていただきましたが、庶務課では、教職員の方々の時間外業務や海外出張を担当することとなりました。「法定休日?」「育児休暇?」いままでは全く意識をしていなかった内容に戸惑うことが多くあります。当然分からないことも多く、課内の皆

様には迷惑をかけっぱなしです。少しは頼りにされる存在に早くなりたくです。

皆様ご存知のとおり4月からはさいかち坂キャンパスが開校し、大学移転に向け着々と準備が進んでいます。その一環として、新しい出勤システムが始動いたします。トラブルがなくスムーズな運用ができることを祈りつつ、皆様が少しでも働きやすい環境をつくれるよう非常に微力ではございますが、頑張ったいと思います。

武本 桂 (大学事務局企画・調査室 事務員)

一昨年12月に出産し、約1年間育児休暇をいただきました。やはり復帰するときには大きな不安がありました。橋本真充広報・公開講座部長や企画・調査室の方々を始め、皆さまに温かく迎えていただき、無事に復帰することができました。もちろん我が子は可愛いですが、母としてだけではなく、自分の居場所があることを改めて嬉しく感じました。

多くのお母さんが言うように、次の子を産むために出産したときの痛みは忘れられるようになっていくもので、1年経った今はあのときの痛みをよく思い出せません。「忘却なくして幸福はあり得ない」のでしょうか。生きていく上で、「忘れる力」に助けられていることを実感します。

しかし、仕事復帰してみると、この「忘れる力」が邪魔をします。一刻も早く休みをいただく前の記憶を呼び起こし、またさらに新しい情報を吸収できるよう、怠けていた脳にスイッチを入れたいと思います。

今、私は主に大学広報の編集業務を担当しております。活字の持つ威力で、日々変革する大学の今を「忘れない」ように、広報編集委員の皆さまと協力して、きちんと記録していきたいと思ひます。

堂地一利 (水道橋病院総務課 会計係長)

2011年は、水道橋校舎の改修が目に見えて進んだ年であり、総務課としては事務室の引っ越しが大きな出来事でした。現在の6階フロア「広いスペースに数人」の状況に対し、寂しくない?などと聞いてこられる方もいらっしゃいますが、仕事は相変わらず忙しくある中でも、私は極めて快適に毎日をごしております。

ところで、私は東京歯科大学創立100周年の記念すべき年に入社し、あっという間の勤続20年越えとなり、今や父親の年齢が私と同じのたまう女子職員と同じ課で仕事をしているような状況で、まさに光陰矢の如しです。大学の移転に伴い、じきに事

務室の人員も増えていきます。その他いろいろ私などからの想定を超えた変化もあるのではないかと想像します。

そんな変動の時に何を思うか、といっても思考は堂々巡りの様相ですが、どんなに時間が過ぎて、またどれほど職場の状況が劇変しようとも変わらぬ、親しみやすい、明るい職場環境を作っていけるよう、忙しさに心を失うことなく、できる限り貢献できれば、と思っています。

ついでに言えば、仕事の状況とはあまりに対照的な、あまりに空疎なプライベートを充実させるべく、頑張ったいと思ひ強く念じています。

中村光博 (体育学研究室 教授)

昨年の7月、無事に還暦を迎えることができました。60歳、実感がありません。自分の若い頃には60歳となればもう老人と認めていたのですが、自分の60歳はものすごく元気な身体にいるというに自然と微笑む姿があります。友達の公立中高校に勤務した人達は、3月で停年退職となります。私は水道橋への移転もありますし、しっかりと仕事をする。明るく、楽しく、元気です！今年も元気な、それも超元気な61歳でいる予定です。気持ちには10歳程若返って51歳！

本郷佐和 (学生 第4学年)

2011年は私にとって震災と部活が印象に残る年だった。同じ島で起きている事実を受け入れられず、テレビの前でただ茫然としていた3月を思い出す。私自身直接的な被害はなかったが、あの日大切なモノをなくした全ての人のこれからの幸せを心から願う。

そして弓道部最後の一年間、副主将として主将・同学年の仲間・40人の部員達と一気に駆け抜けた。引退試合として迎えた医歯薬は主管をさせて頂き、運営は大成功に終わり、最高の締めくくりとなっ



た。今思い返せば弓道部に入ったのは単なる行きずりだったのかもしれないが、それでも4年間辛い時でも弓道が続けてこられたのは、大好きな仲間達や温かく見守って下さる先生・先輩方・師範のおかげだと思う。弓道部に入り多くの人と出会い、社会に出てから大切なことを沢山学ぶことができた。

2012年からは5年生となり、遂に登院が始まる。自分が成長できるチャンスだと思い、多くを吸収し充実した一年を送りたいと思う。

松元吉治 (千葉病院医事課 事務員)

2011年はとにかく東日本大震災に尽きると思います。あの恐怖と惨劇は、かつて経験したことのない恐ろしさ(殆どの方がそうだと思いますが)で、今この建物が崩れたら生涯を閉じるかもしれないと思う程でした。しかし、目の前でどうしたらいいか解らず困惑している患者さん達を目の前にしたら、今自分に出来る何かをしなければ、という気持ちが生まれました。とにかく一人でも無事にご家族のもとへ患者さんをお返ししなければと思いながら、脳裏には家族の顔が浮かび、無事でいて欲しいという気持ちが混ざって複雑でした。

同じ年の2月に人の親になり、少しずつ親の気持ちというものや家族という言葉の意味を強く思う一年となりました。まだまだ社会人としても職場でも未熟者ですが、2012年は自分の仕事は卒なく、マネジメント力を磨いて、職場でも家庭でも「頼りにされる人」を目指したいと思います。

山本雅絵 (口腔健康臨床科学講座 口腔外科学分野助教)

昨年は東北地方太平洋沖地震により日本全体が火山の影響を受けた最中、4月1日より千葉病院から水道橋病院口腔外科へ助教として異動となりました。引き継ぎもままならないまま、患者様、医局の方々、事務の方々にもご迷惑もかけながらの状態であったと思います。

口腔外科医としてまだまだ未熟であり、少数精鋭の水道橋病院でどれだけお役に立てるか、非常に不安でした。システムも異なり、戸惑いも多く、また移転に向けてのシステム変更など様々な出来事があった一年でした。しかしながら、科長をはじめとする先輩、同級生、後輩、看護師さんなど口腔健康臨床科学講座のみなさんからの温かいご支援、ご指導をいただきこの一年を乗り越えてこられたと感じております。助教としての教育的立場としても未熟な点も多く、今後も臨床、研究、教育と精進しなく



てはならないと実感しております。まだまだ至らない点もありますが、本年もよろしくお願い致します。

Sobhan Ubaidus (口腔科学研究センター ポストドクトラル・フェロー (PF))

I cannot quite express my great feelings to be a part of this well renowned TOKYO DENTAL COLLEGE. It is with great pleasure that TDC gave this opportunity to me. It was truly a delight to learn many new things here in TDC within a very short time. I can't express my gratitude to the members of this Institution. TDC is completely new environment for me. Strongly appreciate the warm welcome of my staying here in the Department of Physiology. The members of this department are so cooperative to do the research.

My name is Ubaidus Sobhan. I am used to call Sayeed. I am from Bangladesh and completed my Bachelor of Dentistry in 2003 from City Dental College, Bangladesh. I came to Japan in April 2005 and get myself admitted in the Department of Oral and Maxillofacial Surgery as a PhD student in Niigata University, Niigata. Having graduated from Niigata University in 2009 September, I worked as a Research Associate in Niigata Pharmaceutical University until 2010 September.

I have 7 years old son named Sowad who is first year students of elementary school in Niigata. My wife is also a Dentist and final year PhD student in the Department of Oral and Maxillofacial surgery in Niigata University, Niigata. New Life, New People, New Environment, New Research, New Achievement, New Destination, New Experience. THIS IS IT.

国際渉外部レポート

■金子 譲理事長 International Alliance for Oral Healthに参加

平成23年8月2日(火)に金子 譲理事長の随行者として、私はフィラデルフィアに降り立った。The Kornberg School of Dentistry, Temple University in PhiladelphiaのAmid Ismail学部長が世界に国境を越えて口腔保健のために同盟を結ぶことを呼びかけ、8月3日(水)に当地でAlliance for Oral Health Across Bordersの調印式が行われた。調印式には金子理事長をはじめとして世界各国より参集した歯科界を代表する41名の発起人が参加した。Ismail学部長よりイスラエルで同調することのなかったHebrew University と Al Quds Universityが歯科医学教育で同盟を結んだことがきっかけとなり、今回の調印式に至った旨が説明され、Hebrew UniversityのDr.Adam StabholtzとAl Quds UniversityのDr.Musa Bajaliも調印式に臨んだ。なお、同日、調印式後にグループ討議が行われ、今後のこの同盟の方針について話し合われ、夕刻には発足の記念パーティーが開かれた。翌日、理事会が開かれ、今後のInternational



調印に臨む金子理事長：平成23年8月3日(水)、Temple University



調印式(前列右の日本国旗傍が金子理事長)：平成23年8月3日(水)、Temple University

Alliance for Oral Healthのさらなる国境を越えた活動について話し合いがなされた。

(国際渉外部長 佐野 司)

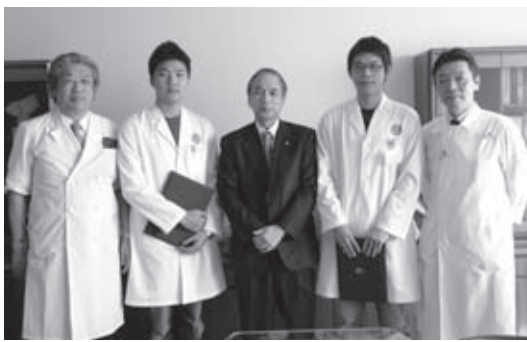
■韓国・延世大学校歯科大学より見学生来校

平成24年1月6日(金)より1月18日(水)までの約2週間、延世大学校歯科大学の第5学年、Park Jengbin(パク・ジョンビン)君、Kim Yeonho(キム・ヨンホ)君の2名が、延世大学校のElective Study Program参加学生として来校した。

4回目となる今回は、事前に希望講座を確認して日程調整を行ったのち、クラウンブリッジ補綴学、歯科放射線学、法人類学、歯周病学、小児歯科学、スポーツ歯学、口腔外科学、歯科理工学の8講座と、市川総合病院オーラルメディスン・口腔外科学およびリハビリテーション科に受け入れを行っていただいた。

学生たちは、法人類学の特別講義や臨床講座の外來見学など、およそ半日単位のプログラムに参加し、歯周病学や歯科放射線学では、本学の第4学年および第5学年の学生に同行し、臨床実習見学も行った。二人とも今回が初来日とあって、夜や週末に都内を観光し、文化の違いを楽しんでいる様子であった。最終日の1月18日(水)には千葉校舎学長室を訪問し、井出吉信学長より修了証を受領。同日夜に開催された武道始めと鏡開きでは、初めて見る実際の武道に目を見張っていた。

このプログラムは延世大学校の学生に毎回好評を得ているため、今後も学生部・課をはじめ関係各位にご協力いただき、さらに受け入れ体制を整えていきたい。



井出学長より修了証受領後の記念写真：平成24年1月18日(水)、千葉校舎学長室

学生会ニュース

■演劇部「劇団・幕の内」第16回公演

東京歯科大学演劇部「劇団・幕の内」第16回公演が、平成23年12月9日(金)と10日(土)におこなわれた。「ミス・ダンディライオン」。季節が過ぎ、待望の千葉校舎講堂での公演となった。

今回の演目は、長年、演劇部の脚本を手がけてきた大峰悠矢の脚色によるもので、原作・梶尾真治「鈴谷樹里の軌跡」、脚本・成井 豊の作品である。演出は海老澤朋宏と長谷川祥。

パンフレットに印刷された脚色家からのコメントには、「誰しも忘れられない出会いがあり、その過去のわずかな一瞬は慰めになるものです。時間も人もプラットフォームにいるように過ぎ去っていきます。しかし、選べたはずの分岐点を再現できたとしたら…」とある。

主人公の鈴谷樹里は、11歳の頃を平井瑞希、そして、子供の頃の思いを胸に大学病院の医者となって働く現在を松浦姫が演じた。11歳の樹里が入院していた病院で出会った青年、青木比呂志に長谷川祥。子供の頃、入院中に生きる希望を与えてくれた一人の青年に、もう一度出会うために、医者になった樹里が危険を冒してタイムトラベルし、過去を変えていく…。もし、自分の人生の、過ぎ去ってしまった「分岐点」を選び直せたとしたら？

主人公の過去に出会ったひとりの青年に対する切ない思いと、緊張感のある舞台展開の中、薬品会社の所長を演じる大橋新が巻き起こす絶妙な笑い。そして、鮮やかな青に染まるクライマックスのシーン。

人生における大切なひととの出会いの意味を、



劇中のシーン：平成23年12月9日(金)、千葉校舎講堂

あらためて考えさせられる舞台であった。

(演劇部部长 橋本貞充)



終演後の集合写真：平成23年12月9日(金)、千葉校舎講堂

■管弦学部学生・大学院生 デンタルファミリーオーケストラ第1回チャリティーコンサートへ参加

平成23年12月23日(金)、はまぎんホールヴィアマールにおいて開催された、デンタルファミリーオーケストラ第1回チャリティーコンサートに、本学管弦学部学生 山下慶子さん(5年)と齋藤裕香大学院生(2年)、原 有紗大学院生(3年)を含むOB20名が参加しました。連休の初日、かつ木枯らし吹く厳しい寒さだったにもかかわらず、会場にはほぼ満席のおよそ450名の皆様のご来場を賜りました。

このコンサートは歯科医療従事者が演奏会を開き、歯科の必要性とともに広く世の中に文化的発信をしようと、一握りの音楽愛好者だけで始まりました。手作りの、そして草の根運動的にコツコツと輪を広げ、15回以上の実行委員会を経て、当日は演奏者約50名、スタッフ約40名、総勢90名となり、全国29歯科大学中、14の歯科大学出身者およびその家族の協力を得るまでに至りました。

プログラムは、コンサートに先立ち、歯科イベントとして、会場フロアで市民向けの一般歯科、口腔がん、矯正、ホワイトニング、アンチエイジングなどの歯科相談コーナーを設けましたが、担当者には本学の末石研二教授、柴原孝彦教授をはじめ他大学でも教授連が快くボランティアを引き受けてくださいました。また、口腔ケア、8020

達成者の咬みあわせの良さについて、被災地での歯科支援活動の写真などの展示を行いました。その間にプレトークとして「ご存知ですか？おうちの病気とからだの病気との深い関わり」と題して、宮田 隆氏（歯科医学教育国際支援機構理事長）が歯周病と全身とのかかわりについて、カンボジア、ベトナム等の歯科事情などをまじえ、わかりやすく解説し、これらはいずれも好評を博しました。

コンサートでは、指揮者に直井大輔氏を迎え、モーツァルト作曲「フィガロの結婚序曲」「ピアノ協奏曲21番」（ピアノ：久世香澄氏・ハーバード大）、ベートーベン作曲「交響曲第7番」を演奏し、大喝采を得ました。最後は、観客からのアンコールに応え、バッハ作曲「G線上のアリア」を演奏しました。殆ど初対面が多かった演奏者たちをたった6回の練習でここまでまとめあげた直井氏の技量と、彼の指揮に応え演奏した先生方の日頃の精進に敬意を表します。

3月の大震災で延期を余儀なくされ、一時は開催が危ぶまれましたが、本学をはじめとする関東各大学の後援、日本歯科医師会をはじめ数多くの歯科医師会、企業協賛、多くの方々のご理解とご協力があって、今回の開催が可能になったものと実感し、実行委員一同深く感謝申し上げる次第です。チャリティーも滞りなく実行できる見込みです。出口アンケートでは次回を期待する声も寄せられました。遠く被災地に思いを馳せ、第2回のコンサートでまたお会いすることを楽しみに…。

（デンタルファミリーオーケストラ第1回
チャリティーコンサート実行委員 茂木悦子）



コンサート風景：平成23年12月23日（金）、神奈川・はまぎんホールヴィアマーレ

■平成24年武道始め・鏡開き開催

平成24年1月18日（水）午後6時30分より、千葉校舎体育館第3体育室において、井出吉信学長、柳澤孝彰副学長、石井拓男副学長、佐藤 亨学生部長並びに武道系クラブ部長や関係教職員、韓国の延世大学校歯科大学からの短期留学生を迎えて、日本古来の伝統行事である「平成24年武道始め」が、香村友彦（3年、弓道部主将）の司会により挙行された。

井出学長、井上 孝少林寺拳法部部长が挨拶を述べた後、柔道部、少林寺拳法部、弓道部、剣道部、空手道部の順に演武が披露された。

武道始め終了後は、厚生棟1階食堂に会場を移して「平成24年鏡開き」が行われた。各クラブ部員が気合を入れてついた出来たてのお餅をいただき、今年一年の飛躍を誓った。



緊張感のある演武を見せる少林寺拳法部員：平成24年1月18日（水）、体育館1階 第3体育室



餅つきに悪戦苦闘する空手部員：平成24年1月18日（水）、厚生棟1階 第1食堂

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

渡邊 裕 編 アセスメントとケアがよくわかる！
口腔ケアの疑問解決 Q&A
学研メディカル秀潤社、2011

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■図書館システムのリプレースについて

平成17年度に導入された本学の図書館システム(富士通「iLiswave-J V1」)が、平成23年12月15日をもって、「iLiswave-J V2」にリプレースが完了した。今回は「V1」から「V2」への更新のため、蔵書および利用者データの移行もスムーズに行われ、現在トラブルもなく、順調に稼働している。今回のリプレースは、OPAC機能の拡充など利用者サービスの向上を図るとともに、水道橋移転後も滞りなく業務が遂行できるよう、これまでの操作性や機能を維持しつつ、さらなる業務の効率化をめざしている。

■外国雑誌の電子ジャーナル利用について(2012年1月～)

新規に2出版社を加えて、以下の主な出版者による電子ジャーナル(パッケージ等)が引き続き千葉、市川、水道橋の3キャンパスからご利用いただけます。利用可能な電子ジャーナルは図書館ホームページ「電子ジャーナル」項の「当館所蔵フルテキスト(A-to-Z)」より検索・アクセスできます。

・Oxford University Press (OUP) 新規

OUP社のMedicine/Life Science分野の電子ジャーナル95タイトルについて1996年から最新号までアクセス可能。

・American Chemical Society (ACS) 新規

JACSをはじめ、Langmuir、Nano Lettersを含むACS発行の電子ジャーナル40タイトルに

ついて、1996年から最新号までアクセス可能。

・SpringerLink (<http://www.springerlink.com/home/main.mpx>)

Springerグループ出版社のカレント電子ジャーナル(約1,700タイトル)の2000年以降へのアクセスに加えて、創刊号から1999年までのバックファイル電子ジャーナル(約1,000タイトル)へのアクセスが可能。Springer提供の雑誌のほぼ全てを網羅しており、医学分野に限らず教養系分野の雑誌も閲覧可能となっている。

・Wiley Online Library (<http://onlinelibrary.wiley.com/>)

Wile-Blackwellの電子ジャーナルのうち、STM Collection(科学技術医学分野)約750タイトルへアクセス可能。概ね1997年以降が閲覧可能。

・Nature Publishing Group (<http://www.nature.com/>)

Nature本誌、Nature姉妹誌7タイトルおよびAcademic Journal等9タイトルについて概ね1997年以降、閲覧可能。

・Annual Reviews (<http://arjournals.annual-reviews.org/>)

Annual Reviews 12タイトルが初号から最新まで閲覧可能。

・American Medical Association (AMA) (<http://www.tdc.ac.jp/lib/jnl/#soja>)

AMAが提供するJAMAとArchivesシリーズ6タイトルについてアクセス可能。

・SciVerse ScienceDirect (<http://www.science-direct.com/>)

Elsevier社の購読雑誌タイトルに加え、ヘルスサイエンス分野、神経科学分野のタイトルが概ね1995年以降閲覧可能。

その他、歯科の雑誌をはじめとして個別タイトルの電子ジャーナルも多数閲覧可能。

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校名誉講師称号記授与式開催

東京歯科大学歯科衛生士専門学校教員会の推薦により、下野正基先生、角田正健先生、山田了先生に歯科衛生士専門学校の名誉講師の称号が授与された。

下野先生は、平成16年6月1日から平成22年5月31日まで6年間校長を務め本学の3年制への移行にご尽力された。また、昭和63年4月から平成23年3月まで病理学正講師を23年間、平成17年4月から平成23年3月まで歯科衛生士概論正講師を6年間、平成16年6月から平成22年5月まで臨床・臨地実習正講師を6年間、通算では昭和63年4月から平成23年3月まで23年間正講師を務められ、長年にわたって歯科衛生士教育に多大なるご尽力をいただいた。

角田先生は、平成元年6月1日から平成16年5月31日まで15年間学生部長を務め本学の教育の充実にご尽力された。また、平成3年4月から平成4年3月まで歯周療法学正講師を1年間、平成4年4月から平成16年3月まで予防的歯石除去法正講師を12年間、平成9年4月から平成23年3月まで社会保険歯科正講師を14年間、平成16年4月から平成23年3月まで健康教育正講師を7年間、通算では平成3年4月から平成23年3月まで20年間正講師を務められ、長年にわたって歯科衛生士

教育に多大なるご尽力をいただいた。

山田先生は、平成3年4月から平成4年3月まで予防的歯石除去法正講師を1年間、平成4年4月から平成23年3月まで歯周療法学正講師を19年間、平成13年6月から平成16年5月まで臨床実習正講師を3年間、通算では平成3年4月から平成23年3月まで20年間正講師を務められ、長年にわたって歯科衛生士教育に多大なるご尽力をいただいた。

名誉講師称号記授与式は、37名の教員の出席のもと、平成23年12月13日(火)午後5時40分より、千葉校舎第1会議室において、石井拓男校長から、下野先生、角田先生、山田先生の学生たちへの信頼と情熱溢れる講義、歯科衛生士教育への長年の功績に対する賞賛が述べられ、続いて井出吉信学長よりそれぞれの先生方の長年のご苦勞を慰勞されるご挨拶をいただいた。その後、石井校長より名誉講師称号記が授与された。挨拶に立たれた下野先生、角田先生、山田先生からそれぞれ謝辞が述べられるとともに、心に残る思い出も多かったことなど、充実した教育の時間を振り返ってお話をされた。続いて、第1会議室横ロビー（血脇守之助先生胸像前）での記念写真の撮影が行われた。



記念写真：平成23年12月13日(火)、千葉校舎第1会議室横ロビー（血脇守之助先生胸像前）

■歯科衛生士専門学校平成24年度一般入学試験実施

平成24年1月21日(土)東京歯科大学歯科衛生士専門学校の一般入学試験が実施され、学科試験(英語・国語)および面接試験が行われるとともに、23日(月)には入試選考委員会が開催され、可否の結果が本人宛に郵送された。

平成24年度の一般入試志願者数は、20名(本県出身16名、他都道府県出身4名)で、昨年より5名の増加が見られ、募集枠を超えるものであった。これは、昨今の経済状況と就職難から国家資格取得(本校国試合格率100%)を目指す学生の増

加と、高い就職率(本校就職率100%)が影響しているものと考えられる。

一般入試の学科試験は、英語・国語の2科目のみとし受験しやすい環境を整えている。さらに来年度は、試験回数の増加、学校説明会の充実、積極的な学校訪問の実施、ホームページの刷新、ポスターの製作・配付などを行い、より多くの受験生の確保に努めたいと思う。

歯科衛生士専門学校にとって、レベルの高い歯科衛生士教育を行うのに必要な優秀な学生を継続的に確保するためには、今後も地道な努力が必要であると考えている。

人物往来

■国内見学者来校 千葉校舎・千葉病院

- さいたま柔整専門学校(学生116名、教員5名)
平成24年1月26日(木)解剖実習、解剖標本室見学

市川総合病院

- 松戸市立新松戸南中学校(学生13名)
平成24年1月18日(水)角膜センター・アイバンク見学(職場体験)

■海外出張

- 篠崎尚史講師(角膜センター)
2011年国際臓器提供摘出会議(the ISODP)出席及びロサンゼルスにて会議のため、平成23年11月24日(木)から12月6日(火)までアルゼンチン・ブエノスアイレス、米国・ロサンゼルスへ出張。
- 櫻井 薫教授(有床義歯補綴学)
39th Indian Prosthodontic Society Conferenceでの発表のため、平成23年12月1日(木)から5日(月)まで、ドバイへ出張。
- 井出吉信学長(大学)
延世大学歯科大学国際シンポジウムならびに、学長ミーティング出席のため、平成23年12月1日(木)から3日(土)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)
延世大学歯科大学国際シンポジウムならびに、学長ミーティングに井出学長出席。学長随員として、平成23年12月1日(木)から3日(土)まで、韓国・ソウルへ出張
- 齋藤 淳教授(歯周病学講座)
延世大学歯科大学国際シンポジウムにて講演ならびに学長ミーティングに出席のため、平成23年12月2日(金)から4日(日)まで、韓国・ソウルへ出張
- 山根淳一助教(市病・整形外科)
第17回 Annual Meeting of SSHV(ベトナム脊椎外科学会)、第3回 Khanh Hoa International Spine Meetingに参加、口演発表、ライブサージェリーのため、平成23年12月2日(金)から12日(月)まで、ベトナム・ホーチミン、ベトナム・ニャチャンへ出張
- 武井 泉教授(市病・内科)
国際臨床化学会 HbA1c 標準化委員会会議に日本代表として参加のため、平成23年12月4日(日)から9日(金)までドバイへ出張
- 青山龍馬助教(市病・整形外科)
第39回アメリカ顎椎外科学会に参加および発表のため、

平成23年12月7日(水)から12日(月)までアメリカ・スコッツデールへ出張

- 茂木悦子准教授(歯科矯正学講座)
The 23rd Annual Conference Taiwan Association of Orthodonticsにて発表のため、平成23年12月9日(金)から11日(日)まで、台湾・台北へ出張。
- 野村真弓助教(歯科矯正学講座)
The 23rd Annual Conference Taiwan Association of Orthodonticsにて演題発表ならびに出席のため、平成23年12月9日(金)から11日(日)まで、台湾・台北へ出張
- 大平真理子大学院生(クラウンブリッジ補綴学)
財団法人 海外邦人医療基金(JOMF)主催の専門科目医療相談における、在留邦人の歯科健康相談および学童への口腔健康教育のため平成23年12月15日(木)から19日(月)までフィリピン・マニラへ出張。
- 青山龍馬助教(市病・整形外科)
Visiting Surgeon Program with Dr.Hynesに参加のため、平成24年1月5日(木)から9日(月)までアメリカ・フロリダ州メルボルンへ出張
- 相澤光博放射線技師(水病・放射線科)
IWAIT(International Workshop on Advanced Image Technology)2012で発表のため平成24年1月8日(日)から11日(水)までベトナム・ホーチミンへ出張。
- 石原和幸教授(微生物学講座)
Gordon Research Conference Spirochetes, Biologyに参加のため平成24年1月22日(日)から28日(土)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)
第30回国際低侵襲脊椎外科学会 記念集会の招待講演のため平成24年1月26日(木)から30日(月)までスイス・チューリッヒへ出張。
- 申 範圭教授(市病・心臓血管外科)
48th STS(米国胸部外科学会)(Society of Thoracic Surgeons) Annual Meeting 出席、受講のため平成24年1月27日(金)から2月3日(金)までアメリカ・フォートローダーデールへ出張。
- 川口新治臨床専修医(市病・心臓血管外科)
48th STS(米国胸部外科学会)(Society of Thoracic Surgeons) Annual Meeting 出席、受講のため平成24年1月27日(金)から2月3日(金)までアメリカ・フォートローダーデールへ出張。

大学日誌

平成23年12月

- 1 (木) 教務部(課)事務連絡会
第338回大学院セミナー
防火・防災安全自主点検日
感染制御委員会(市病)
治験審査委員会・倫理委員会(市病)
- 2 (金) 大学院運営協議会
- 3 (土) 大学院入学試験(1期)【テーマA】
第2回大学教育推進プログラム公開フォーラム
[於：千葉校舎]
市川市との医療救護活動合同訓練(市病)
大学院入学試験(1期)(水病)
- 5 (月) 千葉病院臨床研修管理小部会
- 7 (水) リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
大学院入学試験(1期)選考委員会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
看護部運営会議(市病)
臨床検査運営委員会(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 8 (木) カルテ指導委員会
ICT委員会(市病)
省エネルギー推進委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)
- 9 (金) 大学院入学試験(1期)合格発表
ICLS(市病)
災害対策実施部会(市病)
木曜クリスマス会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 10 (土) 研修管理委員会
- 12 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
第339回大学院セミナー
医療安全研修会
歯科衛生士専門学校3年生卒業試験[・14日]
- 13 (火) 粗大ゴミの廃棄[～15日]
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会・名誉講師称号授与式
褥瘡対策委員会(市病)
教職員後期定期健康診断(水病)
- 14 (水) リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病)
- 15 (木) 千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
センター試験係員合同説明会
[於：千葉県立保健医療大学]
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
部長会(市病)
医療ガス安全管理委員会(部長会終了後)(市病)
- 16 (金) 一般(1期)、センター(1期)願書受付開始
[～1/27]

- 16 (金) 全体係長会 [於:水道橋校舎]
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病)
- 17 (土) 入試ガイダンス[於：水道橋校舎]
歯科衛生士専門学校1年生前期再試験[～26日]
平成24年度第13回看護師採用選考試験(市病)
午後のリサイタル(市病)
患者サロン(市病)
カルテ記載に関するワークショップ(水病)
1～4年生前期追・再試験[～22日]
第108回歯科医学教育セミナー
第1回予算委員会
機器等安全自主点検日
医療安全管理委員会(市病)
- 19 (月) 衛生委員会
第340回大学院セミナー
情報システム管理委員会
看護部運営会議(市病)
糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)
衛生委員会(水病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
- 20 (火) 歯科衛生士専門学校2年生前期再試験[～27日]
管理診療委員会(市病)
- 21 (水) 歯科衛生士専門学校学生冬期休暇[～1/7]
1～4年生冬期休暇[～1/7]
医療連携委員会
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
教職員研修会(水病)
- 22 (木) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
医療サービスに関する検討会
- 24 (土) 学生部(課)事務連絡会
仕事納め・学長挨拶(千葉校舎・市病・水道橋校舎)
- 25 (日) 27 (火)
- 26 (月) 28 (水)

平成24年1月

- 5 (木) 仕事始め・学長年頭挨拶(千葉校舎・市病・水道橋校舎)
教務部(課)事務連絡会
防火・防災安全自主点検日
- 6 (金) 6年生第4回総合学力試験[～7日]
全体課長会
センター試験各班説明会
[於：千葉県立保健医療大学]
予算事務打ち合わせ会
- 10 (火) 1～4年生授業再開
振替授業(月曜日分)
千葉病院臨床研修管理小部会
歯科衛生士専門学校授業再開
臨床実習委員会
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 11 (水) 4年生HBワクチン接種(3回目)
リスクマネージメント部会
ICT会議
臨床教授連絡会
医療ガス安全管理委員会
講座主任教授会
人事委員会
総合講義検討委員会

11 (水)	看護部運営会議(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 臨床検査室委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)	19 (木)	業務連絡会 高度・先進医療委員会 共用試験OSCE係員全体説明会 部長会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
12 (木)	大学院入学試験(Ⅱ期)願書受付開始[~ 2/10] 千葉校舎課長会 カルテ指導委員会 センター試験係員各班業務確認・全体会議 [於：千葉県立保健医療大学] 医療安全研修会 感染制御委員会(市病) 手術室運営委員会(市病)	20 (金)	機器等安全自主点検日
13 (金)	センター試験係員各班業務確認 [於：千葉県立保健医療大学] 大学院運営協議会 ICLS (市病) ICT委員会(市病)	21 (土)	歯科衛生士専門学校一般入学試験 平成24年度第14回看護師採用選考試験(市病) 市病フォーラム2011 (市病) 患者サロン(市病) 午後のリサイクル(市病)
14 (土)	感染予防対策チーム委員会(水病) 大学入試センター試験[~ 15日] [於：千葉県立保健医療大学] 非常保安系統停電[~ 15日](市病)	23 (月)	医療連携委員会 歯科衛生士専門学校一般入学試験選考委員会 東京都エイズ診療従事者臨床研修(第1日目) (水病) 教職員研修会(水病)
16 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 給食委員会 臨床教育委員会 医局長会 4年生共用試験CBT・OSCE事前説明 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日	24 (火)	教養科目協議会 東京都エイズ診療従事者臨床研修(第2日目) (水病)
17 (火)	薬事委員会(市病) 歯科衛生士専門学校一般入学試験願書受付締切 褥瘡対策委員会(市病) 医療安全管理委員会(市病)	25 (水)	図書委員会 看護部運営会議(市病) 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病) 管理診療委員会(市病)
18 (水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 平成24年武道始め 輸血療法委員会(市病) CPC (市病)	26 (木)	一般(I期)、センター (I期)願書受付締切
		27 (金)	災害対策実施部会(市病)
		30 (月)	褥創対策検討会 第109回歯科医学教育セミナー 電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス・勉強会(市病)
		31 (火)	1~4年生後期授業終了 薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会

【訂正】

第251号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

4頁 右段15行目 (誤) 黒川英孝 (大学院3年) → (正) 黒田英孝 (大学院3年)

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田啓 狩野龍二 椎名裕
新谷益朗 高橋俊之 武本桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
(平成24年1月現在)



編集後記

2012年。いよいよ東京歯科大学の水道橋への帰郷が始まります。

水道橋からお茶の水に向う坂の上に、さいかち坂校舎が建ち上がりました。4月からは新入生達の声で溢れることになるラウンジや教室も、今はまだ、完成したばかりの白くてまっさらな静かな空間です。彼らは、教室のペランダから、神田川の向こうに何を見るのでしょうか。

水道橋本館校舎では、1階のエントランスに水道橋病院の新総合受付が設置されるとともに、2階の旧血脇記念ホールが、総合歯科と口腔外科を併設した、ワンフロアの真新しい総合診療室に生まれ変わりました。そして、次のステップに向け、館内各階のあちこちで作業の音が響き、工事現場の白い防護壁の向こう側で、着々と改修工事が進んでいます。

井出吉信学長は、年頭の挨拶の中で、教育・研究・診療を行なう「人」の大切さ、そして、後継者育成の重要性を強く述べられています。水道橋の生まれ変わる校舎、新しい診療室で、東京歯科大学の次の世代の芽が育ち始めます。

2011年の回想&2012年の抱負の中に、今の東京歯科大学を支えるたくさんの「人」の声が寄せられました。ひとそれぞれ。うれしかったこと、ありがたかったこと、大変だったこと、苦労したこと。仕事のこと、仲間とのこと、患者さんのこと。そして、なによりも、多くの人たちが自分の家族のことを書いてくれました。家族への感謝や思い…。それぞれの個性と多様性を持つひとりの「人」が、家族の絆で結ばれ、東京歯科大学に集い、歯科医療を通して社会と繋がっています。

そして、1月31日。教養棟の2階では、1年生最後の授業がいつもと変わらない教室の風景の中で、静かに終わりました。30年、千葉のキャンパスでたくさんの学生達が、仲間として、お互いに助け合いながら、一緒に学んだ教養課程の1年生の教室です。

4月からはさいかち坂校舎で、123期の新しい1年生が、期待と不安を胸に、顔を揃えます。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「第1学年最後の授業 1年B組・全員集合！」

平成24年1月31日。122期・第1学年の後期の授業が終わりました。4月からは、教養棟2階の教室に授業を受ける新入生たちの姿をみることはありません。千葉校舎からさいかち坂校舎へ！ 新しいなにかが始まるとき、旧いなにかが思い出となります。